

令和7年度
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

中間支援ギャザリング資料（中間支援振り返りシート）

活動テーマ

『100年後からみて歴史が変わった社会実験を』

活動団体の活動地域：奈良市

活動団体名：奈良コクリ！実行委員会

中間支援主体名：一般社団法人TOMOSU

中間支援主体としての獲得目標と達成状況

■ 中間支援主体としての獲得目標 【R7年度当初目標】

活動団体自身が共創を生み出すグループなので、「膝詰めの対話」や「信頼の構築」といった「協働のプロセス」におけるプロセス支援については中間支援主体としても力を入れて取り組んできたところである。一方で同じカテゴリにあるものの、「プロセスへのコミットメント」や「中間の成果」に関しては、十分に機能しきれなかったと認識している。活動団体の主体性を損なわないようにしながらも、プロジェクトの進捗を確認しながらプロセスへのコミットを促していけるようにしたい。また、各個人に生まれた事業や活動のタネを収益化するサポート力をより獲得していきたい。社会的事業や地域を元気にする活動は、単体での収益化が難しい場合もあるため、様々な収益化ノウハウを身に付け、その機能を発揮したい。

■ 中間支援主体としての獲得目標に対する振り返り（目標達成状況）

① プロセスへのコミットメント促進

今年度は一定の成果はあげられたと考えている。春日山PJでは、全3回のインタープリター講座の開催やみんなの春日山ラボの実施などを通して、今後の活動していく方向性が見えてきた1年であった。また、コミュニティコンポストは、発起人が悩みながらも自身の事業を一区切りつけたうえでコミットすることになった。開催場所を変えての2回目のコンポスト講座の実施や、コミュニティ運営、今後の収益化に向けた取り組みなど精力的に取り組んでいた。まちごこちプロジェクトにおいても、発起人以外にリーダーシップを持って取り組む人材が現れ、様々な取り組みが生まれてきている。

② 収益化ノウハウの強化

地域での社会的取り組みにおいては、収益性を高めづらいものが多く、複数の収益の仕組みを組み合わせることが重要であると考えており、今年度はそこを意識することで知見が蓄積されたと考えている。参加費等の直接的な収益は重要ではあるが、それだけだと十分でないことも多く、商品・サービス化すること、受託事業を絡ませること、企業を巻き込んでいくことなど、複合的な収益を作ることが重要である。また、地域における寄付文化を醸成し基金などの基盤をつくる事で、チャレンジしたい人が始めやすくなると考えている。中間支援としてそうした基盤づくりにも取り組んでいきたい。

中間支援機能ごとの振り返り

チェンジエージェント機能		R7獲得目標（R7年度当初設定） 高めたい機能（◎/○）とその理由		現状の自己評価（R7年度末時点） 自己評価（◎/○/▲）とその理由	
変革促進	物事を整理する	○	PJが行き詰まるときがあるので、それを進行するため	◎	それぞれのPJにおいて、一定できたと考えている。マンドラも昨年よりはわかりやすくなった。
	意味づける				
	癒しとなる				
	見通しをつける				
プロセス支援	話を聞く				
	場を開く	○	プロセス管理を行うための場が必要	○	全体としてのコクリ！ラウンジや、各PJごとに適宜設定できたと考えている。
	喝を入れる				
	現在地を確認する				
資源連結	新しい人を入れる				
	事例を紹介する	◎	特にマネタイズに関連する事例の紹介が必要	○	コミュニティコンポストはできた。他は視察にいくなどもう少しできたらよかった。
	引き出す				
	拡散する				
問題解決提示	文字や図に落とす				
	問いを立てる				
	会議を進行する				
	落としどころを探る	○	各PJを進めるうえで重要	○	相談・助言によって一定の進捗はあったと思う。
その他	※必要に応じて追加				

今後の中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献 【R7年度当初目標】

本事業において獲得していきたい中間支援機能としては大きく2つある。
一つは、主体的に社会的事業や地域を元気にする活動が生まれてくるような共創的關係性の構築支援機能
二つ目は、生まれてきた活動のタネが事業として持続していくための収益化、仕組化支援機能

上記2つの中間支援機能が向上すれば、奈良市周辺において様々な活動が生まれてくるだろう。そうした活動・事業が増えることにとって、市内在住者の活躍につながるし、さらに県外からの移住者の増加にも貢献できる。そうした事例が増えてきた将来的には、政策提言など、これまでできなかったアプローチによって、より地域づくりに貢献していきたい。

■ 地域づくりに貢献していくために、今後、どうなりたいか

目指す姿	目標達成に向けた、次年度の行動	チェンジエージェン ト機能での分類
「応援する/される」という関係が適宜入れ替わり、「寄付/参加/広報/利用/企画…」など関わり方が多様で応援しあう温かいプラットフォームが定着し、新たなチャレンジが生まれている。	<ul style="list-style-type: none">・他のPJのタネを持った人材を引き入れ、種火が大きくなるように引き出す。・知らない人に興味を持ってもらうためにもWEBサイトなどでの発信を進める。・基盤としての基金の設立に向けて取り組む・中間支援機能としてのまちごこちPJを確立し、取組を広げていく。	資源連結-新しい人を入れる、引き出す、拡散する その他

■ 地域づくりに貢献していくために、外部地域や関係者と連携や協力したいこと

外部地域との交流・情報交換によって、学びとなり、モチベーションの向上にもつながるため、他地域への視察などは可能な限り実施したい。まちごこちPJのような基盤的な事業を強化していくことで、興味を持ってもらえる関係先を増やし、共創的關係性の輪を広げていきたい。